

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市ニッ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	令和 2年 9月25日	評価結果市町村受理日	令和 2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2375601016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2375601016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年10月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

”その人らしさを大切に”地域の中で”普通の生活”を過ごせるよう支援する事を理念とし、出来る限り以前の習慣や馴染みの場所を大切に、その人の役割・有り方など個別の支援に力を入れております。その取り組みとして昨年は一人から始めた散歩が二人で行く様になり公園のゴミが気になると言われ、職員の提案でトンゴとゴミ袋を片手にゴミ拾いを開始、地域の方の”おはよう””ありがとう”の声掛けに会釈をする入居者の日常の姿はとても自然です。他に個別支援での公園散歩・施設内散歩の方が居ます。皆様目標を持ち、いつでも外出できるように運動や気分転換に努めています。地域行事へも積極的に参加し・あま市福祉まつりへの作品展示・地域での音楽祭でのあまケローズとしての合唱参加・地域の敬老会その他色々活動の幅も広がりましたがコロナ禍で外出自粛となりましたが、公園散歩はソーシャルディスタンスを保ちながら継続しています。今年度からホームでの様子をご自身で選んだ写真と手書きコメントで2ヶ月に1度お便りを作り家族に送ったり、季節ごとの絵手紙や貼り絵をハガキに作成しお便りを出しています。ご本人の状態が理解して頂けるのではと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

4月に着任したばかりの管理者は、長年介護業務にあたっており、新体制作りに熱意をもって取り組んでいる。管理者は理念である「その人らしさ」の追求のため、職員の自主性を尊重し、意思疎通がスムーズな職場づくりを目指し、職員の意見・提案を活かす運営を始めた。  
面会制限の中、職員が知恵を出し合い、「家族通信」への利用者の参加が実現した。自筆のための字の練習を行い、絵手紙も取り入れた。利用者自ら行事写真を選び、家族に宛てた自筆のコメントが入った「家族通信」は、家族からも好評を得ている。  
個別支援に力を注いで来たが、コロナ禍のため個別の外出支援は難しくなった。毎日の散歩時にゴミ拾いの社会貢献を継続し、「普通の生活」の中で利用者の「その人らしさ」を追求している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさ・以前の生活習慣や環境などを大切にして、地域事業に積極的に参加し地域交流を深めたり気の合う仲間と馴染みの店に行ったり・地域の商店にて移動販売など行なっている。しかしコロナ禍の中交流は途絶えている。	理念「そのひとらしさを大切に地域の中で普通の生活を過ごせるように支援」は、管理者・職員に周知されている。利用者の担当を置き、利用者一人ひとりの「その人らしさ」を引き出し、個別支援の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園に散歩に出かける事が習慣となっている、その仲間も3人となり輪が広がり、公園を利用される近隣の方と挨拶を交わす事も増えた。入居者が社会貢献で始めたゴミ回収で”ご苦労様”と声を掛けて下さる交流を大切にしている。	散歩の途中でごみ拾いをし、近隣住人と挨拶を交わしている。市の福祉祭りにはブースが設けられ、利用者の作品が展示される。敬老会への参加、地域の衣料店による移動販売など、地域との繋がりを広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回の地域コンサートへ出演者としての参加や市の福祉まつりに入居者の作品を展示する事で、地域の方にグループホームという施設を知って頂くきっかけに繋がり、認知症の方への理解が深まればと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対策にて書面開催を行なっている。より詳しくグループホームの様子を伝える事でより多くの意見をお便りにて頂ける様、又その意見を活かせるよう努めています。	同法人のグループホームと合同で、年6回開催している。コロナ禍において、市の担当者と相談して書面開催としている。メンバーに書面を送付し、返信意見書には多くの意見が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に電話やメールなどで連絡を行っており、理解できない事や不明な事などすぐに相談できる関係である。	運営推進会議には市、地域包括支援センター職員が参加しており、ホームの実情を把握している。地域包括支援センターに相談し、地域の衣料店による「移動販売」が実現するなど、相互協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については施設全体での委員会への参加や研修も行っており身体拘束についての話し合いし、どういう事が拘束に繋がるかなども話し合っている。	法人内の身体拘束委員会や内部研修を通して職員の意識向上を図り、3ヶ月毎にチェックシートを使用して振り返りをしている。言葉による拘束についても意識を持ち、管理者がその場で注意し、拘束に繋がらないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体での内部研修を行っており、年に1度虐待防止チェック表にて自己評価し管理者も評価・面談を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や主任・相談員・居宅職員は後見人制度の専門の方の研修を受ける事はあるが職員全員ではない。ホーム内に利用している方が居るので話す機会はあるが、すべての職員が理解し活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にも聞き取り、口頭説明を行い、契約時は1つ1つの項目沿って丁寧に説明や質問に答えており、その内容事にサインをもらっています。契約を取り交わした後も相談に乗れるよう話しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍に対し運営推進委員会が書面開催になっており、家族・外部の方からの書面での意見をお知らせする事も多く反映できているのではないかと思います。この意見を基に職員一同今後の向上に努めている。	面会や3ヶ月毎の介護計画の確認の機会に、直接意見を聞くように努めている。コロナ禍により面会の機会が少ないため「便り」を見直し、家族から「日頃の様子が詳しく書かれ、様子が分かる」と好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月に1度のカンファレンスでの意見交換と検討会を行なっている。その際各利用者担当への方針や対応など話し合っています。	管理者は長年介護業務に携わっており、職員とは意思疎通ができています。日頃より利用者のプラスになることを積極的に取り入れ、職員の自主性を尊重している。職員の定着率も良く、良好な関係がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年勤務評定を行い、接遇面や専門性などを部署責任者、施設長が評価を行い面談をしている。勤務評定の内容を明確にし法人全体にて賞与に反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内にて新人・中堅・リーダー研修や介護福祉士試験の講習会・スキルに合った外部研修などの取り組みを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1度の市内グループホームの連絡会に参加や外部研修の歳ぐらいいにしか交流がなく、同法人内での意見交流会の開催もコロナ対策で進んでいない状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向・意思・希望など時間を取り傾聴する。その内容を汲み取り配慮する。本人が安心して頂けるよう声掛けを行ない、他利用者さんとの手助けに気配り援助する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の希望・困っている事などしっかり聴きホーム内で要望に応えられるか話し合います。その中で問題解決の糸口を見つけられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況もある為自宅か利用されているデイサービス等へ訪問し暮らしの様子を把握し、本人がホームに来てどの様に過ごせるかを見極めるよう努める。場合によっては他のサービスの利用を勧める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や家事を一緒に行う事で以前の生活を思い出し、「私はこうしていた・これが食べたい・これして良い・何か手伝おうか！」など本人のやる気に繋がる。教えてもらうことも有る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来る限り面会の機会を増やして頂いたり、外出時の同伴や家族との外出・外泊についてお願いなどしています。今はコロナ対策の為自粛し面会も中止しております。個別にて窓越し面会やケイタイでの家族との会話に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月1回の個別支援として行ったり、毎月の1回の手芸店への買い物。馴染みの商店への買い物。仲良し同士の喫茶店めぐりなどおこなっている。コロナ対策で自粛しているがハガキに本人の様子が分かるような形で交流の継続に努めている。	コロナ禍のため、馴染みの人と会う機会が減っている。常連客だった喫茶店から手紙が来て、絵手紙で返信するなど、関係が継続するよう支援している。編み物や週刊誌など、趣味・習慣も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席に関してはその場でレクや食事・コミュニケーションの場所となる為、利用者同士のトラブルにならないように配慮し、仲の良いお互い話の合う物同士で座れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設館内(特養・ケアハウス)に異動された方のご家族・利用者など面会時や行事の際、困った事は無いか声をかけております。相談があった際は積極的に対応出来る様に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から日常生活の様子や家族の意向を傾聴しているが生活している過程で以前は「毎日散歩していた行きたい」と言われ近隣の公園に散歩するようになった。	居室や夜勤帯で1対1になる時間に、傍に寄り添いゆっくり話を聞いている。余り話さない利用者には、ジェスチャーを使って「何が言いたいか」を汲んで話している。把握した情報は、ケース記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時に以前の生活習慣や環境などの聞き取りの際、ご家族や本人の状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には時系列にて記録が記入出来、1日の過ごし方や心身の状態など職員間で共有することが出来、少しでも早い現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング・アセスメントを行ない、担当職員や家族・本人の意向など参考にしカンファレンスを行いプラン作成を行なっている。プラン実行に家族に協力してもらっていることも有ります。	今年度アセスメントシートを変更した。職員意見を記入する欄を増やしたことで、利用者の毎月の変化が分かりやすくなった。毎月、モニタリングやサービス担当者会議を開催し、カンファレンスで共有している。	具体的な目標設定を行い、利用者・家族・職員が、共に達成感の得られる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録記入欄に毎日出勤職員にて気づきを記入し、職員間で共有している。又毎日ケアプランの達成状況の反省や見直しなどコメントを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設館内に座浴機が設置された事によりグループホーム内の浴槽が利用出来ない方もニーズの幅が広がった。馴染みの歯科の先生に見て欲しいという希望に対応し訪問歯科を取り入れた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加・地元の町の敬老会への参加・福祉まつりへの作品参加・入居者の方で結成した「あまケローズ」での合唱団など積極的に参加できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず入居前に家族へのかかりつけ医の希望や確認を行なっている。現在は協力病院が主治医となっているが、以前より認知症でかかっている専門病院は家族に協力して頂き受診をお願いしている。	利用者は、ホーム協力医をかかりつけ医に選択し、毎月の往診を受けている。他科受診は基本的には家族対応であるが、柔軟に対応している。家族対応時には書面で情報を提供し、情報収集して共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回NSが出勤する際、必ず日頃の状態を報告し対応している。又何か相談したい事や処置・受診など協力してもらえ体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは日頃から連絡を密に行ない相談しやすい関係である。1週間に1度のムンテラへの参加も行ない、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に合わせ、その都度家族へ説明し対応する。その際も家族の気持ちに寄り添い努める。	入居の際に、重度化した場合や終末期の支援について、ホームで出来る範囲を明確に伝えて同意を得ている。医療的ケアがない場合はぎりぎりまで支援し、多くの場合、法人の特養や他の転居先を探す支援を行い、最適な住み替えとなるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて心肺蘇生術や緊急時対応についての勉強会もあり、又緊急連絡方法の指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回の防災訓練にて災害対策を行っており、風水害時移動訓練も行なっております。昨年より災害用伝言サービス「171」を利用した訓練を取り入れました。家族に安否確認してもらう事で安心してもらえるよう努めている。	年1回、消防立ち合いで複合施設の総合防災訓練を行い、ホーム独自に風水害の避難訓練を行っている。家族に対し、災害時の117伝言ダイヤルの周知を図っている。複合施設が地域の第一避難所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに付いては指示口調や制止口調にならないよう気を付けている。居室やトイレに介助に入る際ノックや開閉に気を配り一声掛けるよう気を付けている。年に1度接遇チェックも実施し自己評価している。	呼称は「さん」付けを基本とし、狎れ合いにならないようにしている。職員は利用者に対して、自分がされて嫌なことはしない、人生の先輩であり言葉使いに気をつける等、一人ひとりを尊重した支援を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の時間や着替えの衣類・誕生日食・おやつなど声掛けして決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のその人なりの流れは決まっているが、その日の本人のペースに合わせ(体調や状態)支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧している方や自分で髪の毛を整えたいのでヘアピンを家族に持ってきてもらうなど協力してもらっている。起床時の身だしなみなどは毎日行っている。外出や行事の際にお化粧を行なえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんで協力し、テーブル拭き・おしぼり巻き・おしぼり配り・料理の下準備等を職員と行うなど、片付けも朝食後の方・昼食後の方など皆さんで携われるよう支援に努めている。	配食業者の食材を利用しており、畑で採れた野菜を使って職員が調理し、力量・希望により利用者が調理の一連の工程に参加している。地域の寿司屋から形態に合わせた寿司を取り、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の表でバランスを見たり、体調の変化に応じて個別対応をしたり時間をずらし食べて貰うなど各利用者さんの状態にあった支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科衛生士の方に来てもらっていたがコロナ対策にて中止しているが、毎月口腔機能維持管理に関わる助言内容の指導を受け、利用者の口腔ケアや清潔維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ⇒パンツとパット⇒パットからナプキンへ今は布パンツが3名・リハビリパンツから布パンツ1名多少のムラ汚染はあるが細目に声掛けを行いトイレ誘導を行い布パンツなど少しでも爽快に日常生活が送れるよう努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表に基づいて利用者個々に合わせた誘導を行っている。利用者に合わせた誘導、適切な排泄用品の使用で自立度が上がり、リハビリパンツから布パンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り動いてもらうように散歩をして貰うなどし起床時の水分摂取・毎朝の乳製品や海藻等の工夫を行なっている。水分摂取量の調整など努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望される時間帯やお湯の温度など合わせた入浴法を楽しんでもらっている。体調の変化や本人の状態に合った入浴を提供している。	週3回の入浴を基本としているが、毎日入浴を準備し、毎日の入浴にも対応可能である。利用者の拘りのシャンプーや化粧品を使う配慮がある。季節感を味わう、よもぎ湯や菖蒲湯などの工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の食事後ソファーや廊下の零れ日の差す窓越しのソファーで傾眠等本人の安楽となる場所での休息を見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については各職員が変更時その都度処方された内容を共有し、処方後の経過を医師やNSに報告・相談するそうに周知徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方は料理の準備や洗濯たみなど家事などを中心に行っており、男性は新聞取りやゴミ捨てやおしぼり巻きなど協力しておこなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆さん個別支援での散歩・買い物・馴染みの店にコーヒーを飲みに行きママさんや近隣の住民の人の時間を楽しむ・仲良し同士月1度の喫茶店を楽しむ等支援している。が散歩以外はコロナ対応にて自粛中。毎日の散歩は継続	日課の散歩や個別外出等を支援している。現地で家族と待ち合わせる企画外出の花見もある。コロナ禍でも日課の散歩を継続し、普通の暮らしを楽しんでいる。個別外出で出掛けていた喫茶店から利用者に手紙が届き、絵手紙を返信した。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が了承した方に限っては自分で施設内の自販機や売店で購入したり、買い物の際は代金の支払をおこなったりしている。が外出の機会が減っている為・・・		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会も制限されている為2ヶ月に1度職員が撮影をした写真を利用者が選び家族通信を作成しコメントを本人に書いてもらう事。手づくりの季節の絵葉書に一言添えて送ったりして気持ちが伝えられる支援作りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって光の入りが違うためソファの位置を変えたり、掲示物を季節によって変えたりと狭い空間だが季節感を出せるよう工夫している。畑にて季節の収穫を少しだが楽しんでもらいその野菜でおやつ作りを楽しんでもらえるよう工夫している。	リビングの天井に、利用者が作成した季節を感じさせる藤棚やぶどう棚が吊るされ、棚の下で抹茶を飲んで楽しんでいる。ソファが置かれた廊下では、日向ぼっこやうたた寝をする利用者もいる。菜園では野菜が育てられ、世話や収穫に利用者の活躍がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間の為中庭の花や緑などが眺められるように廊下に椅子を出したりし一人スペースを作る。食後などゆっくりと茶話会が出来ておしゃべりが楽しめる時間作りなど。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用していた物や使い慣れたものがあるようであれば使用して貰う。利用者の方で毎日化粧を行なう為ドレッサーを持ってきた方や自宅で使用していたテレビを大きいを持ち込んだ方もいます。	行事写真や家族写真が飾られた居室、お気に入りの花瓶に庭で摘んだ花を飾った居室、利用者が毎日使う化粧台が置かれた居室、仲よし同士が井戸端会議をする居室など、どれも居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所までいけない方の為矢印を付けたり、看板を大きくしたり・目線の高さに居室表札を貼ったり・入居者の立場と目線に合った工夫に努めている。		